

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 2月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有)藤山商事		
事業所名	あいグループホーム		
所在地	広島市東区東山15番2号 (電話) 082-264-1006		
自己評価作成日	令和2年1月	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3470103544-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 2年 2月 7日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は静かな小高い場所にありグループホームの窓から新幹線が良く見えます。なかなか見ることのできない新型新幹線も良く見ることもでき入居者様は大変喜ばれています。夜になると市内を一望できる夜景がとてもきれいです。目の前の公園も四季を感じさせてくれる公園があります。公園で楽しそうに遊ぶ子供たちの姿を見て目を細められたりかわいい犬の散歩を見たりと心温まる情景に何とも言えない安堵でいっぱいの様子です。当グループホームと病院は併設されており週3回医師と看護師の往診があり日頃の体調管理をしっかりと行っています。又、様態が悪くなられたときには24時間体制で医師や看護師が連携し速やかに対応し安心できる生活を送っていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

あいグループホームは、病院の中に位置しており、病院との連携が密にとれる環境にあり、医療面においてスムーズな支援が行われている。重度な利用者も居られるが、職員は、利用者が、本人本位の生活を営めるような支援を行っている。ホームの向かいには公園があり、季節の移り変わりを楽しんでおられる。リビングの大きな出窓からは暖かい光が差し込み、近隣市街地を一望し、新幹線が走る様子も間近に眺めることが出来る。家族は、大きな病院と併設しているという事で、不審者対策・ウィルス対策等、安心安全なことを指摘される。理念である「明日の事を、思い思う事よりも、今日一日を、輝いて」を統括責任者が率先して実践される姿勢は、皆さんが統括を慕われる所以であろう。ゆったりとした穏やかな一日が流れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝の申し送り後にその日の出勤職員と夜勤明けの職員と事業所の理念を大きい声でご唱和し、夜勤者の労いと職員のスタートのけじめをつけて実践につないでいる。	皆さんの目に付きやすい場所に事業所理念である「明日のことを思い患うよりも、今日一日を、輝いて」を掲示して、毎朝の申し送り時に皆で、唱和し、ユニット会議においても話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	子供たちの遊び場でもある目の前の公園清掃を行っており、地域との交流の場として少しでも地域の皆様に貢献できるように心掛けている。	毎月一回、地域の方々の憩いの場にもなっている公園の清掃作業を行っている。地域の一員として貢献出来るよう継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の中に広島市認知症アドバイザー登録をしている職員がおり、認知症に悩まれているご家族の相談に乗ったりアドバイスしたりして家族様の悩みを軽減するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に必ず行っている。家族のいらっしやらない方が多いので参加者はほとんど無いが、包括支援センター、民生委員の方々に意見を聞いたり情報交換しながら行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員・民生委員・利用者家族・統括責任者等が参加して、利用者状況、事故報告、身体拘束廃止委員会に関する報告と意見交換をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月には送付しており、グループホームあいの状況を知ってもらおうようにしている。又、市との事業所として分からないことがあると出来る限り役所に伺い相談に乗っていただくように心掛けている。	東区役所、ケースワーカーとの定期的に報告・相談したり、時には、地域包括支援センターからの依頼があったりと協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」を職員一同頭に入れ、一生懸命ケアに取り組んでいる。又、施設内研修においてしっかり勉強をしスキルアップをするよう職員一同心掛けている。	身体拘束廃止委員会を設置している。3ヶ月に1回、運営推進会議時に行い、身体拘束廃止について話し合い、研修も重ね、知識を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当施設での虐待は絶対にはないが、管理職や職員は高齢者虐待防止法等について市の研修を受け学ぶ機会を持ち、スタッフ間で常に情報を交換している。身体チェックは入浴時にボディチェックして、ボディチェック表に毎回記入して、虐待を見逃さないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者とユニットリーダーは「成年後見人の制度」の研修を受け個人個人の必要性を考えながら関係者と話し合い支援するようにしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については十分な説明を行いご家族の理解を得て納得をしていただいた上で同意の署名、押印をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の面会時や電話連絡した際にご意見と要望を統括責任者がお聞きしそれらを運営に反映できるように情報を共有しケアに活かしている。</p>	<p>家族の面会時や遠方の方には、電話等で利用者の日頃の様子を話して出来るだけ要望や意見を聞き、運営に反映させているが、要望としては、少ない。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者は統括責任者と管理者、ユニットリーダーの意見や零案をまとめたものを基にしっかりと耳を傾け運営に役立てている。</p>	<p>ユニット会議では、自由な発言を求め、個々の利用者に対する介護方法であったり、他の提案(～したいんですが?)を聞き、それらを検討し、運営に役立てている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ストレスのたまりやすい職業であるためリフレッシュ休暇を取りやすいように代表者は配慮している。又、残業もほとんど無く賞与を年4回支給し職員のモチベーションを上げ自ら意欲的に働ける環境づくりをしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>月に一度ある「ユニット会議」にて統括責任者が施設内研修をしており、忘れてしまうことの多い基本をもう一度分かりやすい説明と研修資料を元に繰り返しながらのスキルアップに努めている。又、身体拘束について簡単な研修を毎回行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>代表者は統括責任者や管理者が同業者との交流を大切にし質を向上させていくよう会議での取組みをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の不安と困っていることを傾聴しながら又、ご本人の不安を取り除くよう職員は出来るだけ側に寄り添い信頼関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の思いをお聞きし、困っておられること、不安なことをお聞きしご家族の要望もゆっくり傾聴しお互いの関係を作っていくように職員はつとめるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランに基づいて支援をしていき日々の生活の中に組み入れて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくり・ゆったり」をモットーとした施設の中で生活のリズム作りを職員とともに作り上げていき疑似家族ではあるが、コミュニケーションをしっかりととり、より近い関係が出来るように一同心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に入居者様の日々の生活状況をしっかりと説明しながらコミュニケーションをとり御家族様の不安を取り除き、安心していただける様に入居者様を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所の方やお友達、親戚の方が訪問しやすい環境づくりを目指している。	利用者の親戚や知人の訪問があり、お茶などで接待し、しやすい雰囲気づくりに努めたり、又、家族の会が、墓参り等にでかけたりして馴染みの人や場所との関係が、途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤独にならないようにしっかり職員が声かけをし、新しい入居者様が自然に輪の中に入れるよう、職員全員で支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても本人、御家族のご相談に応じられるよう話を聞きやすい関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設での生活に慣れていただく中で、ご自分が望まれている生活を許す限りして頂ける様に職員は検討しながら希望に沿って生活できるようにしている。	一人ひとりに寄り添い、言葉で表現されないことも様子でくみ取るようにしている。又、忘れないように、日頃の様子をケース記録に書き込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生きてこられた人生の中で一番心地の良い生活環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人にあつた一日の過ごし方を作れる様努めて職員一同いつもユニット会議で一ヶ月に一回話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一ヶ月に一回のユニット会議で個人個人の介護計画書をモニタリングし話し合つてその人にあつたより良い介護計画書を作成するようにしている。	介護計画は、4ヶ月に1回、見直しているが、変化があれば、その都度見直している。月に1回、モニタリングをして職員全員で意見を出し合い、ケアマネが、本人本位に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は介護記録を読み返ししながら日々の生活状況を把握・チェックし職員間の情報を共有し介助に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	認知症でレベルが下がってきてもご本人が不安にならない様声かけをして、孤独にならない様、気配りを支援する取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握しながらしっかりとした支援をする。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看の往診が週2~3回あり、身体的な心配も無く、安心して生活を送れるよう少しの体調の変化があるときも医師に報告し、適切な医療が受けられるように支援をおこなっている。	母体の病院の内科医と看護師の往診が週3回あり、他科は、職員が付き添う。歯科医は、毎週(木)往診がある。又、緊急時には、直ぐに対応できる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の生活の中で特変があった場合、併設している病棟ナースに報告し、また相談しながら医師との連携をとり何事も早急に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設されている病棟に入院されることがあるが、職員がお会いしに顔を見に行くことによって入居者様の不安が取り除かれ病院での情報交換もしっかりとおこなうことができる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に近づいている場合は家族ご本人の思いをしっかりと聞いて職員一同がその思いに沿った支援、医療と介護が出来るよう努めている。	契約時に重度化した場合の対応について説明をしているが、実際に重度化された場合には、医師と相談しながら、家族の希望の限界まで沿うよう支援している。現状では、母体病院での看取りが殆どである。(看取りの経験もある)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故があった場合もすぐに隣の病棟の看護師と医師に連絡し大事には至らないようにしている。施設内研修をしたマニュアルを常に頭の中に入れていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災管理者研修を受け、安全に導くことの出来るようにしている。又、6ヶ月に1回の防災訓練と年に1回消防署の方に指導していただきながら安全について学んでいる。災害時は市が指定している安全な場所へ誘導することを職員全員が頭に入れていく。	年2回、避難訓練を行っている。今年度は、2回とも自主訓練を行ったが、通常年1回は、消防署の立ち合いの下、指導を受けながら、安全面に留意し、利用者と共にしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重しプライドを傷つけないように配慮しながら職員はいつも気を使いながら声かけを行っている。	年1回は、接遇研修を行い、一人ひとりの人格を尊重しながら、言葉遣いに配慮しており、スピーチロック等も研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	管理職の上司が個々に傾聴し、希望や悩みをゆっくりしっかり聞くことにより、安心した生活が出来、自己決定が出来るよう不安の無い支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の業務進行型でなく、その人にあつたペースで「ゆっくり・ゆったり」との生活をしていただき入居者様のニーズに答えていくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分の気に入られた洋服を職員と選ばれ、着て頂くように支援している。又、髪の毛もきちんと整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の楽しみでもある食事はその人に合わせた普通食、キザミ食で汁のトロミがある人にはトロミを付け提供している。献立についての説明もして、職員が見守る中で落ち着いて食事が出来るよう食事中はTVを切り、クラシックを聞きながら静かな中で食事をさせていただいている。	食事は併設された病院と同じ献立ではなく、配食業者から、届けられ、時には、弁当を持参して縮景園に出掛ける時もある。おやつも手作りする時もある。お好み焼き・焼きそば・たこ焼き・ホットケーキ等、喜ばれている。食事中は、クラシック音楽を流され、ゆったりとした雰囲気の中で、食事が進む。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の水分量、摂取量をチェックし職員全員が分かるように介護記録と一緒にファイリングしている。水分・食事量・摂取量が少ない場合はその人に応じたゼリーと高カロリー食品等を飲んでいただき補助しバランスを取っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員が入居者様一人一人を洗面所にお連れして口腔ケアを実践している。出来るところはご自分で最後の仕上げは職員がしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄状況を職員全員が把握し、出来るだけトイレ誘導し車イス使用の方については二人介助でトイレに座っていただいて自立に向けた支援につとめている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して、トイレ誘導している。車椅子で立位が難しい方もできるだけトイレでの排泄をしてもらうように努めている。排便コントロールして、定期的に促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	週2～3回の医師往診の際に必ず排泄状況、便の形状を報告し、ドクターの指示に応じ排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	男性、女性と入浴日を決めているが、ご自分の入浴カレンダーに記入しご自分で入浴日を把握し忘れない様にされている。又、職員も声かけをし入浴日を知らせている。	基本は、週2回入浴している。特浴もあるが、座位の難しい方も2人体制で浴槽に入れておられ、清潔保持に努めている。5階にあるホームなので、浴室の大きな窓から、街中を一望できる楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ベッドで休みたいときは少し横になって頂き、夜間は夜勤者が二時間に1回訪室し、安否確認を行い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助は大きな声で「〇〇様〇月〇日の朝・昼・夕のお薬です」と言って服薬、又職員も誤薬予防の為に必ず確認している。口の中に入れて「ゴクン確認」をし、口の中に残りそうな入居者様には口の中を確認し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ごみ入れを作ってもらったり、ビニール袋を畳んでもらったりしていただき、苦痛にならない程度に手伝ってもらおうようにしており、入居者様が毎日楽しそうにされるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春秋の天気の良い日はグループホームの入居者様と一緒に子供が遊ぶ公園で散歩するよう心掛けている。子供たちや散歩している犬を見て、目を細められる場面も多くあり出来るだけ心が和むように支援している。	気候の良い時には、利用者の体調を見ながら、公園を散歩している。同系のグループホームが、縮景園の近くにあるので、花見に出掛けている。雨の日でもホームに立ち寄り、交流する事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時にお小遣いの中で買い物をして頂ける様、職員と一緒に考えて欲しいものをご自分で支払って買い物をして頂ける様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば電話を掛けたり手紙のやり取りが出来るよう準備をしながら職員が支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓から人が歩く姿や新幹線が通っていくのを見たり、昔のことを思い出しながらお話されたり、新しい新幹線を見て喜ばれたり、いつも職員が側にいて傾聴することを心掛け常に笑いのある空間を作るようにしている。	リビングは、照明や空調管理は適切で、大きな出窓があり、市街地が一望できる。廊下も広く、病院の一角にあるので、不審者対策・ウィルス対策も万全。キッチン是对面式で、ご飯の炊ける匂いや盛り付け等、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一日のほとんどを過ごされることが多いリビングで、TVを見たりぬりえをされたりと御自分の好きなように過ごされている。疲れたときは御自分の居室に入室ベッドに横になられ御自分の好きなよう又気分の楽な生活をして頂くように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人一人の個室で御自分の好きなように気に入ったものを持ち込まれ落ち着いて生活出来るようにして頂き居室に時々職員がお邪魔し話を傾聴するようにしている。	居室の採光は十分な明るさがある。、室内は、本人が今まで使い慣れたテレビ・置物・縫いぐるみ・電気スタンド・ラジオ・日用品・レクで作成した作品等が持ち込まれ、本人が、居心地よく過ごせるよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレが共同で1フロアに車椅子が入るほどの大きなトイレが4室ある。ゆったりとした所で排泄が出来て安全であり貼紙でトイレの場所が分かるように工夫している。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

あいグループホーム

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム あい

作成日 令和 2年 2月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員のスキルアップのための施設内研修の強化 (虐待・拘束)	それぞれの職員が統一ケアを行うを行うことにより支援を手厚くし職員のスキルアップにつなげる様にする	1ヶ月1回のユニット会議で研修を行い、又実務をしっかり身につけるようにスキルアップにつなげる。	12ヶ月
2	25	レク計画が、なかなか進まない。	室内でカラオケ参加して頂きました所たいへん喜ばれ楽しまれた。これからもカラオケや他の企画も考えて楽しんで参加してもらえようにするい。	入居者様と職員が一緒に楽しみながら参加させてもらい楽しんでもらえるように職員がレクレーションの取り組みをする。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。